

## 2022年入試合格体験記(一部)

愛知医科大学医学部医学科に合格した、名古屋高校卒の伊藤向輝です。

セントメプレスには二浪目の春から紹介を受けて入塾しました。自分の弱点を客観的に見抜いて頂きたく個別指導塾を探していて、立地の良さ、精鋭揃いの講師陣、管理の行き届いた環境、小規模の集団授業に魅力を感じ、3月の中旬からメプレスの自習室に籠り始めました。その矢先、悲劇が僕を襲います。忘れもしません、4月5日。補欠合格を頂いていた、某私立医大から繰り上がり合格の候補と言われ、あなたはほぼ確実に繰り上がりますと言われました。当然、合格したものだと思い、中野学長にも報告し、明後日の入学式に備えてました。その翌日の朝9時30分頃、昨日の話は無かったことにしてくださいとの電話が入りました。悔しさ、悲しみが入り混じって気が狂いそうになりました。今思えば、その時の悔しさが医学部へ絶対に進学するんだという意思の強さに繋がったのだと思います。そんな苦い経験を胸に始めた浪人2年目は、中野先生、吉野先生、水嶋先生、高田先生、泉先生、市位先生、御手洗先生、そして事務の相津さん、ヘレンさん、グレイスさん、チューターである、山下チューター、大野チューターなどの皆さんのバックアップのおかげで不自由なく、心置きなく勉強に打ち込みました。

英語に関しては個別指導で基礎事項からみっちり叩き込んで頂けて、中野先生にはとても感謝しています。なぜ、この答えになるのか意味がわからない時に一からキチンと論理付けて納得できる形で解説を咀嚼して教えてくれる学長の学びに対する姿勢は教育者としてあるべき姿を体現していると思います。その反面、毎週実施していた、22時からの単語テストでの中野先生の小ボケや冗談は日中の疲れを吹き飛ばす、癒し?であり恩師でもあり、また友人のような存在であり、とてもお世話になりました。

数学に関しては水嶋先生にとってもお世話になりました。数学が得意ではない僕に、自分で考えだす力を付けていただき、インプットとアウトプットの繰り返しをみっちり行いました。とてもフレンドリーに接していただいたので個別指導は楽しかった思い出しかありません。

化学は入塾当時からかなりの苦手意識がありました。化学のために個別指導にしたと言っても過言ではないのですが、吉野先生は的確に弱点を指摘し、合格する力を伸ばすことが出来ました。受験校のことなども気軽に相談、そして返答して頂けるので良き相談相手でもありました。

生物の授業では個別、集団ともに高田先生に担当していただきました。暗記がモノを言う科目である生物。何回も丁寧に反復して暗記事項を確認する生物の集団授業は忘れがちな知識の再確認にはうってつけでした。入試直前で生物の集団授業で取ったノートは非常に役に立ち、助かりました。

またセントメプレスでは小論文、国語、面接の対策も豊富です。御手洗先生の授業は疎かになりがちな古文、漢文などを要点をまとめて手短かに教えていただけますし、日本史も学び方から慎重に教えていただきました。二次の面接対策では林先生、前野先生にお世話になりました。実際の面接さながらの緊張感ある面接練習は最終的には自信も付き、決して付け焼き刃ではない確固たる二次力が付くでしょう。

長々と書くとうるさいと思うので、ここで先生方の事は割愛させていただきます(勿論、他の先生方も素敵で素晴らしいです!)、このようにどの教科にもスペシャリストがいるセントメプレスは難関国公立大、難関私立大、医学部を目指す人には最適な塾だと思います!

1年間という長いようで短い期間をメプレスで過ごせて良かったと思いますし、感謝しかありません。ありがとうございました!!



### プリティ中野のモノローグ

セント・メプレスには医学部志望の生徒が多く集まります。医学部向けの指導にも医学部入試情報にも強いからですが、かといって医学部専門予備校というわけではありません。医学部以外にも強いからです。実際、文系の生徒も毎年のようにお預かりしています。セント・メプレスは受講生一人ひとりに合わせたレベルでハイクオリティな個別指導を提供すること、そしてストレスなく勉強に集中できる環境を提供することで、この体験記の添付写真の合格者のように晴れやかな表情をお子様へ伝えていただくことをミッションとする大学受験専門の私塾であり、医学部を目指す人にとっても、また国公立難関大学の理系/文系学部を目指す人にとっても、勉強に全集中できるセカンドハウスです。

京都大学文学部、早稲田大学政治経済学部、早稲田大学法学部、早稲田大学スポーツ科学部に現役合格しました斎藤峻貴(東海高校)です。

セントメプレスには高校1年生の二学期に入学し、京都大学を志望することを決めてからは主に二次試験対策をして頂きました。

英語では、中野先生の指導は大学受験のみに焦点を当てたものではなく、勉強の姿勢を見直させられました。中野先生は授業で扱う長文の内容についてまで前もって調べてきて、予備知識として細かく教えて下さりました。これぞ熱血教師って感じで、気さくでお茶目な中野先生ですが、僕自身は熱血でもお茶目でもないので、僕への対応によく困っていました。市井先生の英作文添削は正確かつ丁寧で、英作文を得点源にすることができるようになりました。市井先生は穏やかな中に激しい情熱を持つ先生です。

国語では、御手洗先生が多くの過去問や模試を用意して下さり、長い記述に慣れることができました。御手洗先生は毎度適切な教材をどこからか見つけてきて下さり、驚いていました。体も器も大きい方です。

最も苦手な数学では、高田先生は僕の苦手範囲の克服を目的とした指導をして下さり、僕に大嫌いな空間図形の問題を嫌がらせのように何度も解かせて大変ありがたかったです(苦手は克服しました)。吉野先生は僕に過度な期待をせず、最低限解ければいいラインの問題の指導をして下さり、これが本番で非常に良かったです。吉野先生は人に気を遣ったりしないので、褒められると一番嬉しかったです。

僕の勉強のペースは高校2年から最後まであまり変わりませんでした。早く寝て遅く起きる生活を続けていましたが、やる時にやればそれでいいと思います。メプレスの中で文系受験生は僕一人でしたが、疎外感を感じることはなく楽しく勉強することができました。

諸先生方、スタッフの方々、2年間半ありがとうございました。



愛知医科大学医学部医学科に合格した、名古屋高校卒の加藤将人です。

セントメプレスには高校三年生の秋に苦手分野克服という形で入塾しました。そして、一浪目はセントメプレスに入り全教科の基礎を叩き込み、二浪目は苦手分野を集中的に教えてもらいました。

浪人期間を含めた受験勉強の3年間はあっという間でした。その中で僕が1番大切であると思ったことがあります。それは何事にも「謙虚」であることです。この気持ちのおかげで、いくら成績があがろうと「まだまだだ」という気持ちを忘れずに勉強し、「解ける!」と思った問題にも油断せず丁寧に解くことができました。また、この「謙虚さ」は自分のことを「自分はどのような人間なのか?」「自分に合う勉強法は何なのか?」と自分を客観視することにも繋がります。その結果、自分の勉強法を見つけることができ、ケアレスミスはどのような場面で起こるのかということも把握することができました。その結果、一浪のときに苦労したケアレスミスは激減し、常に兜の緒を締めた状態でいれました。

メプレスの強みをあげたらキリがないのですが、僕が思うメプレスの1番の強みは「対応力」であると思っています。例えば、愛知医科大学の一次合格をもらってから次の面接試験まで3日間しかないにも関わらず、面接練習のための先生を用意して下さり、万全の体制で面接試験に挑むことができました。その結果、面接では試験官に「君、話すの上手だね」と褒められました。また、僕が水嶋先生の物理を少しだけ取りたいと言った時すぐに予定表を組んで下さり苦手分野を補強することができました。他にも、解答の添削をすぐしてもらえたり、授業の日程を自分の予定に合わせてもらえること、勉強の相談にすぐに乗ってもらえることなどその対応力はピカイチであると思っています。

受験というものは一つの分岐点です。一つの合否でこの先の人生がまるっきり変わってきます。受験に落ちたら悲しく、お先ダークネスと感ずることがあるかもしれません。しかし、ある人の言葉をお借りすると、最強の人生を歩むコツは「出た結果を正解にする」ことであると思います。受験生の皆さん頑張ってください。

